

# 平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 宮前 小学校
校長氏名	坂本 雅城
作成日	平成 30 年 3 月 13 日

## 1 教育目標

### 健・心・知の育成を目指し実践力のある子を育てる

#### 2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	(1) 保護者や地域の方々に授業参観や啓発活動を通して宮前教育方針を知ってもらう。 (2) 子どもの様子を積極的に保護者や地域の方々に知らせる。 (3) 東和中学校との連携の充実・推進を図るとともに、幼稚園や保育所との連携を進める。	(1) 人権・同和教育を推進すると共に、人権意識の高揚(差別をなくそうとする意欲と実践力)に努める。 (2) 人権総合学習等の取組を通して、地域や地域の人々や自然に関心を持ち、つながりを深めていくようにする。 (3) 教師と子ども、子ども同士、教師と保護者、教師と地域の円滑な関係の構築に努める。	(1) 基礎学力の向上を図る。 (2) 指導方法の工夫改善を図る。 (3) 国語科を中心に、「伝え合う力」を育み授業研究を活性化する。 (4) 「うちどく」を推進し、親子の読書力向上と関係性の向上に寄与する。 (5) 外遊びを奨励すると共に、体力・運動能力の向上を目指す。
取組の状況【D】	○ 授業参観や教育講演会、学級通信、学校便り(宮前ナビ) 回覧版等を通して子どもの活動状況を広く伝えて、保護者や地域の人々の意識改革を図った。 ○ 学校開放月間等を利用して、地域の方、保護者の学校訪問を促し、其の取り組みを広く伝えた。 ○ 地域先達事業との協働・連携をはかった。	○ 教科学習だけでなく、道徳や学校内外の様々な教育活動を通して、児童の実態を十分にふまえ、地域に根ざした同和・人権学習プラン、同和人権総合学習等を活用し、心に響く指導を重ねた。 ○ 教科学習はもとより、朝の会や終わりの会、清掃活動や児童会活動等、教育活動全般を通して、教師と子ども、子ども同士、地域の方々との心の交流を図り、お互いの人間関係の連携を強化し、どの子にとっても居場所のある学校・学級・地域づくりを推進した。	○ 算数科の授業はT.Tによるきめ細かな指導を行い、学習内容の確実な理解と定着を図った。 ○ 基礎学力充実のため昼学の工夫、放課後学習フォローアップ時間を確保し、国語科・算数科の復習の徹底と、発展的な問題にチャレンジした。 ○ 「ことばの力」を育てるために、学校図書館、「うちどく」を利用し、本を読む習慣をつけてきた。
取組の成果と課題【G】	◇ 「宮前ナビ」や授業参観、教育講演会等を通して行った保護者の意識改革は、まずまずの成果を得られた。 ◇ 本校保護者あてアンケートの結果は、調査項目のほとんどにおいて好意的反応が75%は超えていた。 ◇ より地域に開かれた学校にしていくなためにも、各会合に参加し、学校の様子を伝えていかなければならない。	◇ 「チーム宮前」の教育理念が浸透し、教職員が一丸となって勢いを感じることができた。また、PTAでも同様の取り組みがなされ相乗効果を見ることができた。(夏祭り、地区懇談会等) ◇ 保護者アンケートの結果を公表し、その中から好意的反応が低い項目は、次年度の課題として取り組みたい。 ◇ 地域に出かけたり、地域の先達の方にゲストティーチャーとして学校へ来ていただいたりする機会をふやし、関心やつながりを深める機会を持つことができ、子どもの感性を高められた。	◇ 学力・体力ともに、停滞気味ではあるが、学力部・学推を中心に振り返りを大事にした、みやまえメソッドを考え、やや向上の兆しが認められた。 ◇ 個に応じた基礎学力向上のための指導、昼学での少人数指導で、国語科・算数科の徹底復習をするが、まだまだ個人差が大きい。◇ 伝え合う力を高めるために、「書く力」「話す力・聞く力」を育てるため、各学年で研究授業を実施し、協議会等で研究を深め、実践に生かした。また、「ことばの力」を育てるために、「うちどく」を進め、朝の読書の時間を確保し、本を読む習慣づけをしているが定着していないのが現状である。
改善方法【A】	◎ 保護者あてアンケートの結果から鑑み、子ども一人ひとりをさらに見つめ、認め、褒め、生かすためにも保護者への関わり方の工夫・改善を図りたい。具体的には、評議委員・関係者評価委員のさらなる協力を仰ぎつつ、教職員の意識改革を促進していきたい。 ◎ 幼・保・小・中連携委員会を機能させ、年度当初に年間の計画を立て、活発に交流を企画、運営をする。まずは、幼小連携から始めていく。	◎ 人権意識の高揚はもとより、本物の芸術や職人芸などに触れる機会を多用し、出前授業の活用等、豊かな体験活動や地域の有識者を招き、さらに、知識の伝達をし推進したい。更には、教師と子ども、子ども同士、教師と保護者との円滑な関係性の高揚に努める。また、初期対応を早めることを意識づける。	◎ チーム宮前を合言葉に、基礎学力充実はもとより、教師と子ども、子ども同士コミュニケーション能力の向上、読書やうち読の推進をする。研究授業を基とした授業改善はもとより、若手教員が多いため、多くの授業を見る機会を増やしたい。OJTによる普段の授業改善等に積極的に取り組み、楽しい授業達成のため、教員相互の資質の向上を目指す。

#### 3 その他の課題

◇ 「チーム宮前」の考えは、教職員のみならずPTAや子どもたちの中にも浸透し、学校全体が勢いを感じるようになってきた。この勢いをそぐことなく邁進していきたい。課題としては、学校施設の老朽化問題(体育館の床・プールの浄化施設・北校舎階段・トイレ・床・特別教室など)がある。一方、ソフト面では、家庭での子どもが取り組む予習や復習等の学習問題や携帯電話やゲーム機等の使い方に対する課題も見え隠れしている。ハード面は、早急に行政当局の鋭意努力により改善して頂きたい。ソフト面については、学力向上、体力向上に保護者・地域・教職員が一丸となって粘り強く取り組んでいきたい。◇ 大学生ボランティア、地域人材の更なる活用により、よりきめ細かい対応が出来ると確信した。引き続き、複数の大学生を受け入れることで、より開かれた、行き届いた教育を目指したい。◇ 地域先達の活用もさらに勧めたい。